

## 第8次大阪府医療計画 素案(概要)

## — 現状・課題と今後の主な取組等 —

## 救急医療

## 救急医療の現状と課題

- ◆高齢化の影響で救急搬送患者は増加していくことが見込まれ、救急医療機関の質を担保しつつ、救急医療体制を確保する必要があります。
- ◆人生会議（ACP）を踏まえた高齢者の救急医療について、医療関係者のみならず、福祉関係者や消防関係者等の間で意見交換を行い、心肺蘇生を望まない心肺停止患者の意思を尊重した取組を進める必要があります。
- ◆高度な診療技能と充実した医療体制を必要とする熱傷診療については、集約化を図る等、救命救急センターの機能分化と連携を検討する必要があります。
- ◆新興感染症の発生・まん延時において、感染症対応と通常の救急医療を両立できるような体制を確保する必要があります。
- ◆限られた救急医療資源を有効に活用していくため、府民に対する救急医療の適正利用を啓発していく必要があります。

## 救急医療の施策の方向

## 【目的（めざす方向）】

- ◆救急患者の生存率向上

## 【目標】

- ◆二次救急医療機関の確保
- ◆眼科・耳鼻咽喉科の二次後送体制の確保
- ◆熱傷センターの指定
- ◆新興感染症発生・まん延時を含む円滑で適切な救急医療体制の確立
- ◆適正な救急利用の促進

## 【具体的な取組】

- ・脳卒中等救急隊判断的中率や圏域外への搬送等について、病院前活動と病院後活動の一体的な検証を行い、必要に応じて傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準を改正します。
- ・ORIONによって集約したデータについて、救急医療体制向上を図るため、より幅広いデータ活用を行います。

## 【具体的な取組】

- ・救急患者に対する受入体制を確保するため、医療機関の協力を得ながら、引き続き二次救急医療機関数を確保します。
- ・救急搬送患者受入促進事業や救急患者受入コーディネート事業、輪番による搬送困難患者最終受入当番制の実施などにより、受入体制を確保します。
- ・人生会議（ACP）を踏まえた高齢者の救急医療について、医療関係者のみならず、福祉関係者や消防関係者等の間で意見交換を行い、心肺蘇生を望まない心肺停止患者の意思を尊重した取組を進めます。
- ・眼科・耳鼻咽喉科については、大阪市中央急病診療所に対応できない患者のために、引き続き輪番制により体制を確保します。
- ・熱傷診療については、救命救急センターの中から熱傷センターを指定し、機能集約と連携を図ります。
- ・重症外傷診療については、機能集約の将来的な必要性や連携のあり方の検討を行います。
- ・新興感染症の発生・まん延時において、感染症対応と通常の救急医療を両立できるような体制を確保します。

## 【具体的な取組】

- ・公民連携を図るなど、広報活動を充実させ、救急医療の情報提供や適正利用にかかる普及啓発を行います。